

平成21年度 第3回安曇野市文化振興計画策定市民委員会 会議概要

- 1 協議会名 平成21年度第3回安曇野市文化振興計画策定市民委員会  
 2 日 時 平成21年11月20日 午後1時30分から午後3時30分まで  
 3 会 場 安曇野市穂高交流学習センター“みらい”地域学習室  
 4 出席者 笹本委員長、百瀬副委員長、三原委員、濱委員、岡本委員、小山委員、伊澤委員、矢ノ口委員、石田委員、細川委員、降旗委員、鈴木委員  
 5 市側出席者 丸山教育長、北條文化課課長、上條文化振興係長、那須野文化財保護係長、財津文化振興係主査、三澤文化振興係主査  
 6 公開・非公開の別 公開  
 7 傍聴人 0人 記者 2人  
 8 会議概要作成年月日 平成21年11月23日

協 議 事 項 等

- 1 会議の概要  
 (1) 開 会 (北條課長)  
 (2) 教育長挨拶  
 (3) 協議事項  
 (4) 閉 会 (北條課長)
- 2 協議概要  
 (1) 安曇野市文化振興計画の骨格について  
 委員長・今回は市内の施設を視察し、市民委員の皆さんと心を通わせることができました。委員の皆さんの意見をまとめた。(資料内容説明)
1. 安曇野で残したい文化
- 自然・景観・風土  
 「風景」「水」「景観」を残していきたいという意見を出していただいた。一方で私権との係わりがあり、難しい面もある。どのように景観を残し作っていくか、地域や学校ごとのスポットで景観を維持していくような文化提言も良いのではないかと。
  - 暮らし生活用具  
 暮らしそのもの、「日常生活」が「文化」という共通理解を得た。
  - 芸術文化  
 これまで「文化」といえばこの分野が主体だった。「臼井吉見」など、安曇野ゆかりの人物に着目している点は良い。これらの詳細な意見は、文化振興計画の提言の材料となる。
  - 歴史資料  
 大逆事件資料を文化としてどのように扱うのか。多田加助の資料などもそうだが地域の資料としてだけでなく、安曇野全体の資料としてどのように扱うか。どういう形で次代へ伝えるのかの提言が必要。新市庁舎ができるとすれば、現在の資料館では保存環境が劣悪なので、空いた庁舎へ置いてもらえるように提言するのも良いのではないかと。
  - 伝承文化・文化財・出土品  
 一つの施設での集中展示の意見をいただいたが、時代区分や地域を越えた出土品展示は困難だろう。皆さんの知恵を集めたい。どうしたら残せるか。
2. 各施設
- 豊科郷土博物館 旧豊科町のものが中心。市全体とするのか、地域のものに絞っていくのか課題。
  - 豊科近代美術館 基幹美術館・博物館となりうる施設。
  - 田淵行男記念館 収蔵資料の展示。蝶好きな人に絶大な知名度を持ち、周囲に田淵を顕彰する人物がたくさんいる。
  - 飯沼飛行士記念館 館として限界に来ているように思われる。
  - 安曇野高橋節郎記念美術館 収蔵品もすばらしい。風景も良い。

貞享義民記念館 他の人物の展示なども必要か。三郷のローカル性から全体のものへ位置づける必要がある。

臼井吉見文学館 堀金の文学館でなく、市の文学館へ。田淵館と同様、生原稿などの資料の保存方法の改善が必要。

穂高陶芸会館 体験施設へ特化したほうが良い。松本平としては貴重な資料が展示されているが、それを見に来る者は少ない。市全体の体験施設とするにはさらに洗練する必要がある。

研成ホール 今回は訪問せず。

穂高郷土資料館 地域のものにするか、全体のものにするか課題。

三郷民俗資料館 管理上に不安。養蚕資料をまとめれば国の文化財になりうる。

堀金歴史民俗資料館 ガラ紡績が特筆。

明科歴史民俗資料館 資料館の中でも良い収蔵品がたくさんある。

#### ○今後の方向性

そこに行けば安曇野市のことがわかる施設が必要。市民が郷土のことを学ぶために多くの情報を提供するとともに、安曇野に来たお客さんに紹介できる名刺がわりの施設とすべき。しかし、全てを展示するには資金が足りない。薄くても広くするのか。大逆事件や加助騒動に特化するのか、明治以降の文化に着目するのか。また、美術館に現在収蔵しているものもどうするのか、きちんと論議したい。緑豊かな山岳景観・田園風景を文化として保つにはどうしたら良いのか、どうしたらより良くなるか考えたい。

#### ○博物館・資料館をどうするか

委員・・・20年度の施設の人件費や運営予算を知りたい。

事務局・前回の資料に予算規模を載せている。

委員長・行ったことがない施設があれば、日常的に行って欲しい。説明が必要なら事務局で案内する。文化施設の中に抜けているものがある。それは神社や寺で、これらは昔の文化施設と言える。今回の論議は自分たちの枠から離れていない。枠から脱するためにも、かつての文化施設を見て欲しい。

委員・・・学校単位で地域の資料館見学を行っているが、市にとって重要な資料は一箇所にまとめ、子どもの学習に必要な基本的なものは地域の資料館に置く。その他のものは収蔵庫へ入れたらどうか。

委員・・・古代から現代まで一箇所で学べることは大切。市のまちづくりとして、センター的なものが欲しい。松本市や大町市など近隣の市がどのように展開しているか知りたい。

委員長・作るという状況になったら視察すべきであるが、近隣というのではなく国内でも良いものを見るべき。

委員・・・視察により今まで知らなかったものを知った。合併により無駄となるものが出てきた。収蔵資料も仕分けしてまとめるものはまとめたい。安曇野全体として考えたい。出土品は一箇所にまとめて管理したい。陶芸会館は無駄。洗馬焼は塩尻のもので安曇野には関係ない。陶芸を学びたいれば他でも良いのではないか。早急に整理するべきではないか。

委員長・特定のものだけを整理するのは後で問題が生じる。統合するかどうかを決めてから話を進めたい。展示できなくても収蔵しておく施設も必要。施設の新設が無理ならどこに資料を置くのか。閉じる必要があればどこを閉じるのか。まずは、一つの博物館が必要かどうか論議したい。

委員・・・あちこちを見せていただくと、似たようなものが展示されていた。これらは一箇所にまとめればよい。子どもたちに見せるにも、一箇所にいけば全部見られる方がよい。一方で、興味がある子が近所に見に行ける分館的なものがあると良い。分館では周期的に展示替えを行うのが良い。

委員・・・今のままでは市民が住んでいる地域以外の他地域のものを知ることはできない。できるだけ早く一つの施設でスペースを分けて地域ごとの展示をしたほうが良い。

委員・・・来館者数という点では資料館は少ない。魅力的な展示構成が必要。

委員長・民俗に特化し民俗資料館にするのか、広く市博物館とするのか。ともあれ、博物館・資料館を統合すべきという意見が主流のようだ。どのように安曇野市の一体感を出す方策を作るかが課題となる。統合するときにはどのような館とするのか提言し、地域の館、美術館をこうすると具体的に提言したい。

委員・・・一館に集めるのは良いが、もう少し安曇野市内や近隣の施設を見たい。私立館を含めて見学

し考えたい。展示とそれに耐えうる収蔵資料が必要で、安曇野市に残されているものがそれに耐えうるのか。ガラクタみたいなものもあるではないか。

委員長・ガラクタも視点を変えれば違うものになる。捨てられていたものも再評価されて良いものと判断される時がある。その評価は100年後かもしれない。全ての資料を収蔵するというのはまた別の方策である。場所、内容など具体的なことは今後考えるが、本委員会の合意として、市を代表する施設を一つ用意するというで良いか。

委員・・良い。

委員・・有形的なもので論議しているが、無形的なものも見て考えて欲しい。そういうものを見る機会を設けて欲しい。

委員長・良い風景、無形文化財を皆で見る機会を作りたい。

### 3. 自然・風景を残すにはどうしたらよいか

委員長・まずは夢のようなことも含め語り合いたい。

委員・・堰の中に豊かな生態系があった。今のU字溝を改修することはできないと思うが、学校の周辺や景観を大事にしたい地域で復元したい。

委員長・何かを取れば必ず何かを失うのが今までの状況。昔のような堰の復元は、子どもたちの命を守る安全性を確保することは難しくなる。一方で、現在のような「管理された水」の状況は良くない。「水の風景」は論議したい。他にも課題として挙げられるものはないか。

委員・・安曇野の景観を電柱・電線が邪魔をしている。モデル地域を選んで電線の地中化を行いたい。まちづくりや観光への提言を行いたい。

委員長・これも論議すべき。全ての地中化は無理だが、残したい景観があれば、そこをモデル化していく提言をしたい。場所を考えながら「地中化」の論議をしたい。

委員・・看板・町並みの規制をし、田園風景を残していくこと。レンゲ畑など昔のものの復元などは、他の部署との連携の必要がある。

委員長・看板も文化。看板の規制も文化。景観に邪魔にならないような方策を考えていくべき。

委員・・住民協定による看板規制をしている。

委員長・住んでいる人たちが率先してやっていくことがベスト。

委員・・道祖神や本棟造りの屋根などは安曇野の景観を維持している。

委員長・道祖神は残っていくと思うが、本棟造りの維持は私権に関わることなので難しいが、その良さは提言したい。

委員・・大切なものを残していくには市民がどのように関わっていくかという指針が必要。市へそのような指導や規制を提言していったらどうか。

委員・・先駆的な活動の資料をまとめたい。多田加助・清沢冽・松沢求策・熊井啓。彼らの活動をまとめることは、博物館で何を展示するかに通じていく。

委員・・音楽については無形の文化だと思うが、コンサートホールなどを利用して音楽祭を行いたい。また、若手の音楽家の養成を行いたい。

委員長・個別具体的なことを言い始めると多くの問題が出てくる。松本で音楽祭をやって、安曇野でも必要なか良く考える必要がある。

### ○文化振興計画の骨組みについて

委員長・(資料内容説明)文化振興計画の策定に当たって、安曇野に生きる幸せを感じるものにした。安曇野市独自の歴史・文化・伝統・地域文化を第一に据える。本当の文化振興策は永久不変のものであるはず。この文化振興計画の冊子は美しいものを作り多くの人に見てもらいたい。市民の皆さんの心に火をつける計画を作りたい。

委員・・屋敷林についてはどうか。

委員長・屋敷林は個人の財産であり、そこに市の税金を投入することはできない。屋敷林が必要なのか、屋敷林のような景観が必要なのか。どこかで論議を行いたい。外側からは良い景色に見えるが、そこに住む人にとってはどうなのかを踏まえる必要もある。

委員・・文化振興計画は、市の押し付けでなく、市民の自発的な面を重視していきたい。

### (2) 市民アンケート調査について

委員・・アンケート調査というものは、コストに見合ったものなのか疑問。合併時のアンケートは生かされたのか。

事務局・合併時のアンケートの回収率は高かった。結果は施策に有効に反映させることができる。

委員長・市民の理解を得た施策とするためのアンケートである。アンケートは実施していただきたい。インターネット上からも投票できるようにしたい。